

富山大学杉谷（医薬系）キャンパス研究活動一覧（第38輯）の発刊にあたり

ここにキャンパス研究活動一覧の第38輯を発刊しました。本誌は、昭和53年の第1輯以来、医薬学図書館運営委員会の中で研究活動一覧編集委員を務められている先生方のご尽力により、今日まで継続して発刊されています。

本誌は、医薬系キャンパスの全教員の著書、原著、総説、学会発表等を纏めて毎年作成しております。今年度で発行号数は38輯を重ね、歴史的にも充実したものになっております。2005年以降の内容は、医薬学図書館のホームページや富山大学学術情報リポジトリを通して一般に公開されており、研究活動の成果を社会に還元する役割も果たしております。

昨年度からは原著・症例報告の英文研究業績の形式をPub Medの掲載スタイルに統一し、掲載資料作成の簡便化が図られました。本誌は学内において教員業績評価データの作成のための基礎的資料として活用されており、情報の共有により共同研究を始め研究の活性化に繋がることが期待されます。

さて、本図書館は開館以来30年余りの間、杉谷キャンパスにおける医学・薬学の知の情報源として教職員に利用され、「とやま医薬・健康情報ライブラリーネットワーク」「連携病院コンソーシアム」等を通じて地域貢献の上でも実績を挙げてきました。この間に、医学部においては看護学科の創設、地域枠の導入による入学定員の増加、大学院修士課程の創設、また薬学部においては、6年制導入に伴い収容定員の増加がありました。医薬学図書館のサービス対象者数は、学生だけでも開館当時（昭和54年）に比べ1.8倍に増大しています。同時に、書架スペースの狭隘化も深刻であり、開館初期に比べ蔵書冊数は2.2倍に増えたため、閲覧スペース・書架スペース共にすでに限界を超えて危機的状況にありました（杉谷キャンパス医薬学図書館将来計画 平成22年より）。また、学術情報基盤作業部会が報告した今後の在り方についての記述には『大学図書館は、学生にとっては学習の場であると共に大学生活の場でもあり、学生に魅力ある場所としての図書館施設・整備の整備が求められる』とあります（科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会 平成18年より）。この指針の実現のため、大がかりな改修が計画されました。そして以前より工事が行われていた医薬学図書館は、2014年12月16日にめでたくリニューアルオープンしました。今回のリニューアルオープンには、指針に基づく図書館の実現のために、歴代図書館長をはじめ関係各位のご尽力の賜物によるものであり、新しい医薬学図書館として無事にスタートさせることができました。学習スペースの設置の拡充は元より、閲覧・書架スペースも充実しました。IT対応のサービスや快適な利用環境の整備も加えて、医薬学図書館の機能は大きく拡充しました。新しい学習スペースで熱心に机に向かう学生をよく見かけるのは嬉しい限りです。

最後になりましたが、第38輯の発刊にあたり、ご多忙の中ご尽力いただきました研究活動一覧編集委員会の先生方と医薬学図書館課の皆様には厚く御礼申し上げます。本業績集が医薬系キャンパスの皆様にとりまして研究活動の益々の発展に繋がれることを願っております。

富山大学医薬学図書館長 清水 忠道

Shimizu Tadamichi